

平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380810

研究課題名(和文) 相談支援とコミュニティワークとの機能的総合化に関するシステム論的研究

研究課題名(英文) Study of the Systems Theory on Functional Integration of Consultation Support and Community Work

研究代表者

松端 克文 (Matsunohana, Katsufumi)

桃山学院大学・社会学部・教授

研究者番号：90280247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：福祉専門職の課題は、個々人の生活課題(個別のニーズ)と地域に共通する課題の双方に焦点を当てることである。その対応としては、そうした個人の抱える生活課題と地域の課題のすべてを明確にし、相補的に生活課題の解決が図られるような方法で、お互いが機能するようにすることである。そのためにはそれぞれの地域の中で、相談支援の機能とコミュニティワークの機能を統合する必要がある。

研究成果の概要(英文)：The task of social worker then to focus on both the personal trouble (individual need) and the public issues. The response identifies the needs of all persons and community involved and seeks to enable each to function in such a manner that need fulfilment is complementary and the needs of all are fulfilled.
The response need to integrate function of consultation support with community work in each community.

研究分野：地域福祉

キーワード：相談支援 総合化 地域づくり コミュニティワーク コミュニティソーシャルワーク システム理論

1. 研究開始当初の背景

コミュニティの希薄化や人口減少、少子・高齢社会の進展を背景として、さまざまな生活課題を抱えている住民が多く存在する。典型的な課題として、「複合多問題」や「制度の狭間の問題」あるいは「支援拒否の問題」などがあげられるが、こうした課題を地域の中で解決するという観点から地域福祉への期待が高まっている。

こうしたことを背景として、国および自治体での政策としては、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)や「地域福祉のコーディネーター」といった相談支援を担う専門職の配置を進めている。

しかし、こうした課題にアプローチしていくための方法論は、その配置の仕方やどのような業務内容とするのかといったことを含めて、必ずしも明確とはなっていない状況である。

とりわけ個別支援と地域支援との関係については、曖昧な状況である。「個別支援の実践を通じて地域づくりにつなげていく」というスローガンは、理念が先行しており、明確なエビデンスがない状況である。

2. 研究の目的

そこで本研究では、先駆的な取り組みをしている自治体におけるこうした個別支援系の専門職の配置状況や実践内容を質的・量的に調査し、整理・類型化する。

その上で、地域において個別支援系の相談支援を展開していくためには、それとは別にコミュニティワーク(地域支援)の機能を担う専門職による実践が不可欠であることを明らかにし、この個別支援系と地域支援系の2種類の専門職の配置のあり方を中核とした地域福祉推進のための具体的な仕組みを提示することを目的としている。

3. 研究の方法

大阪府を中心に先駆的にCSWを配置している自治体の状況を関係者へのヒアリングや、CSWへのインタビュー調査などを通して、配置状況や業務内容、実践事例などの分析を通して、上記の仮説を検証する。

4. 研究成果

本研究の目的は、相談支援にあたる専門職が、複合多問題や制度の狭間の問題などを視野に入れて、総合的・包括的に相談支援を行おうとした際に、個々人への相談支援に加えて、地域づくりのための支援(=コミュニティワーク)の課題が顕在化し、個々の専門職にはこうした個別支援から地域づくりへの展開を志向することが求められるものの十分に実践することができないために、個別支援から地域づくりを志向する専門性とは別に、地域づくり(専門職・関係機関のネットワーク形成や、地域組織化、住民の主体形成と福祉活動への支援、資源開発など)そのも

のを主眼とした専門性(=コミュニティワーク)の必要性が生じ、それに対応するための仕組み(直接的にはいわゆる「コミュニティワーカー」の配置)が求められるようになることを明らかにすることにあつた。

大阪府内では、各市町村に分野横断的に地域の住民の生活課題に総合的に相談に応じる「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)」が配置されている。もともとは2004年度より始められた大阪府のCSW配置促進事業に基づくものであり、共通のマニュアルに基づいて、事業推進が進められてきたが、その実態は市町村ごとに異なる。たとえば、CSWの所属機関が、社会福祉協議会(社協)のほかには社会福祉法人、その他NPOの割合は概ね5:4:1になっており、すべてのCSWが社協所属の職員の場合もあれば、社協と社会福祉法人所属の職員が混在しているなどいくつかのパターンに分かれる。

また、概ね中学校区にCSWを1人配置することが目安となっているが、たとえばある市では人口約40万人に対して5名配置であるのに対して、別の市では人口7万人に対して同じく5名が配置されているなど、この点も多様である。そして業務内容も多様なものとなっている。たとえば人口18万人に8名のCSWが配置されている市では、その業務内容は個別の相談支援をベースに、共通した課題に関して資源開発的な取り組みを実施しているものの、コミュニティワークの展開が十分にできているわけではない。先の人口40万人に5名のCSWを配置している市では、CSWは社協配置で地域支援の担当を兼ねているために、個別支援にも従事しているものの、主たる業務はコーディネートを中心としたコミュニティワーク的な業務が多くを占めることになっている。このように個別支援ベースでCSWが業務を遂行する場合は、コミュニティワーク的な側面が弱くなるし、逆にCSWがコミュニティワーク的な業務を中心に遂行している場合には、個別の相談支援の側面が弱くなっている。

このように個別支援から地域づくりまでを総合的に支援することを期待されるものの、実態的にはどちらかの側面に偏りがちになる。そこでヒントとなるのが、人口7万人で5名のワーカーを配置している市での取り組みである。同市では当初、3つの中学校区に個別支援をベースとしたCSWを3名配置していたが、その後1名追加し、4人で個別の相談に総合的に支援する体制にしたうえで、CSWの活動や他機関等とのコーディネートの主たる役割とした基幹型CSWを1名配置するようになってきている。この基幹型CSWがコミュニティワーカー的な役割を担っている。

安易な結論は控えるべきではあるが、個別支援にしろ、地域づくりにしろ、単一の専門職が2つの支援を総合的に推進することには無理があり、個別支援をベースにするので

あれば、別途地域づくりへの専門性が必要となるし、地域づくりがベースとなる場合には、個別支援との連携が必要となるといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

松端克文「地域福祉計画を実行性あるものとしていくために」『月刊福祉』2017年9月号、全国社会福祉協議会、2017年。(pp.14-19)
査読なし

松端克文「地域福祉推進における2つの支援機能 個別支援と地域支援に着目して」『桃山学院大学総合研究所紀要』第42巻第3号、桃山学院大学総合研究所、2017年。(pp.1-27)
査読なし

松端克文「2015年度学界回顧と展望 地域福祉部門」『社会福祉学』Vol.57-3、日本社会福祉学会、2016年。(pp.199-228)
査読なし

松端克文「社会福祉法人改革と地域福祉 『地域における公益的な取組』を中心として」『日本の地域福祉』第29巻、日本地域福祉学会、2016年。(pp.21-29)
査読なし

松端克文「2014年度学界回顧と展望—地域福祉部門」『社会福祉学』Vol.56-3、日本社会福祉学会、2016年。(pp.190-215)
査読なし

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 5件)

単著

松端克文『地域の見方を変えると福祉実践が変わる コミュニティ変革の処方箋』ミネルヴァ書房、2018年。(全264頁)

共著

松端克文「地域福祉の教育の方法」、「地域福祉の理論 岡村理論と学説史」、「地域福祉計画」上野谷加代子・原田正樹編著『地域福祉の学びをデザインする』有

斐閣、2016年。

それぞれ(pp.14-26)、(pp.72-77)、
(pp.190-195)

共著

松端克文「地域における福祉政策と福祉計画」公益財団法人日本社会福祉士会編集『社会福祉士基礎研修テキスト上巻』公益財団法人日本社会福祉士会、2015年。(pp.248-269)

松端克文「地域福祉における『つながり』をつくる機能」上野谷加代子・斉藤弥生編著『福祉ガバナンスとソーシャルワーク ビネット調査による国際比較』ミネルヴァ書房、2015年。(pp.39-52)

松端克文「福祉計画—市町村における福祉計画の位置」岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹編著『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣、2014年。(pp.192-195)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松端克文

(MATSUNOHANA Katsufumi)

桃山学院大学 社会学部 教授

研究者番号：90280247

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()